

AOTO HOSPITAL NEWSLETTER

東京慈恵会医科大学附属青戸病院 青戸病院だより

2011
No.24

編集発行責任者 伊藤 洋

〒125-8506 東京都葛飾区青戸 6-41-2
TEL 03-3603-2111(代表) URL <http://www.jikei.ac.jp>
E-mail: aotokouhou@Jikei.ac.jp

INDEX

01. 着任のご挨拶～小児科・感染制御部

02. 診療部門紹介～新病院への展望～ 救急部

03. 診療部門紹介～新病院への展望～ 総合内科

04. 平成23年度初期臨床研修医のご紹介 - 院内節電ご協力をお願い- 新病院建築状況- 編集後記

着任のご挨拶

小児科



●小児科
診療部長 齋藤義弘

この度、白井信男小児科診療部長の後任として4月に着任いたしました。青戸病院に勤務するのは、初めてのことで戸惑いもありましたが、皆様に暖かく迎えられ、その一歩を踏み出す事ができました。

青戸病院小児科が果たすべき役割は、地域における中核病院としてのニーズに応えるため、小児のプライマ

リーケアから専門医療まであらゆる疾患に対応できること、また二次を主体とした地域の小児救急に、夜間・休日を含めた24時

間体制で対応できることだと実感いたしました。スタッフ一同皆様のご期待に応えられるよう努力いたしますので、葛飾区ならびに近隣の医療機関の先生方におかれましては、これまでと変わらぬご支援、ご協力をお願い申し上げます。

ご存知のように青戸病院は、平成24年1月に慈恵医大葛飾医療センターとして生まれ変わります。新しい小児科の外来や病棟は、子ども達が少しでも安らげるよう随所に工夫をこらしました。付き添いでの入院も取り入れて子ども達やそのご家族が安心して治療に専念できるようにいたします。どうぞ皆様、リニューアルオープンを楽しみにしてください。

感染制御部



●感染制御部
診療部長代行 吉川晃司

この度、本年4月より青戸病院に新たに設立されました感染制御部に診療部長代行として着任致しました。感染制御部は平成12年に慈恵医大病院本院に中央診療部門として発足された診療部で病院感染対策、感染症診療を柱としております。

病院感染対策は、当院の感染対策委員会、感染制御チームと連携しながら、MRSA等の耐性菌、結核、インフルエンザ、ウイルス性発疹症

など様々な病院感染に対するコンサルテーションと実際の感染防止対策活動を行っております。

感染症診療は主に成人の感染症を対象とした外来診療を行うほか、各診療科から入院患者の感染症診療に関する相談を受け対応しております。新橋の本院ではHIV感染症や輸入感染症、寄生虫感染症の診療を行っており、今後は当院でも診療できる体制を整えていきたいと考えております。5月より感染症外来を第2、第4火曜午後開始しました。感染症患者の診療、感染症に関するご相談につきましては、随時対応して参りたいと考えておりますので宜しくお願い申し上げます。



診療部門紹介～新病院への展望～

救急部



●救急部
診療部長 又井一雄

平成18年10月6日より青戸病院に救急部が診療部として新たに設立されました。救急部は部長1名、副部長1名（総合内科兼務）、外科系医長1名、内科系医長1名（総合内科より出向）、外科レジデント1名で構成されております。

2012年1月に新病院が開院される事となり、基本指針として救急・総合診療を前面に打ち出すとともに、大学病院分院にふさわしい高度医療を提供し地域医療への貢献を医療者への全人的・総合的教育を両立することで最高のコミュニティホスピタルを目指すとしてきました。これに基づき「24時間365日稼働する外来」「断らない2次救急」「総合診療システム」が基本コンセプトであります。

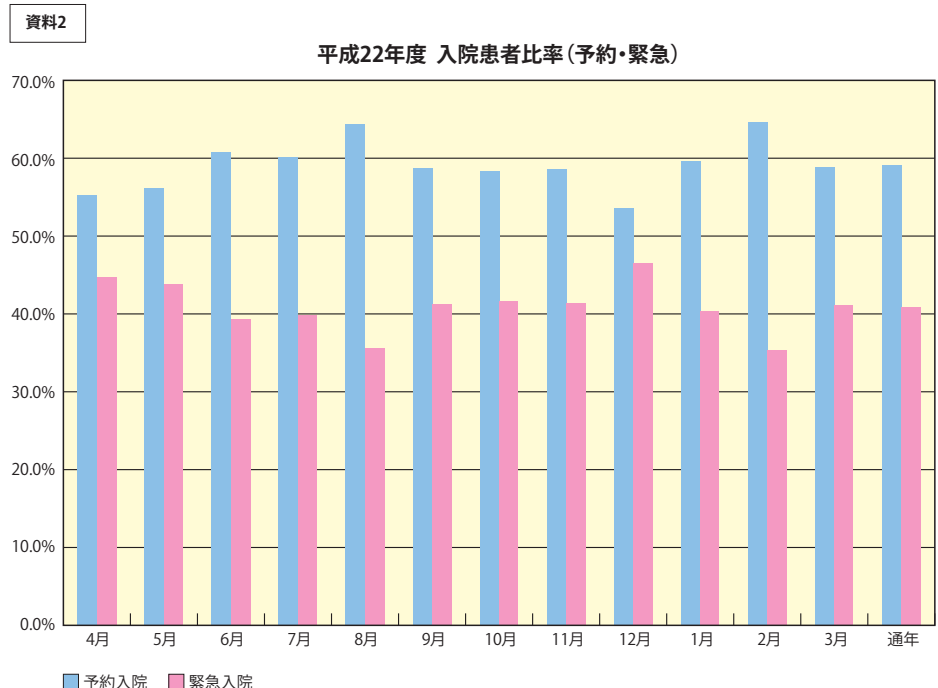
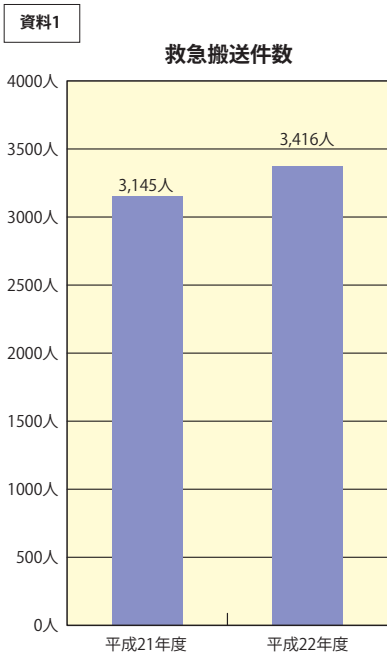
現在日勤帯では、外科系は救急部、内科系は総合内科が初療し、その後当該科に依頼しています。かかりつけ患者は絶対にお断りしない、また近郊の医療機関からのご紹介に対しては十二

分に対応させていただきます。夜勤帯は内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、産婦人科にて対応しております（日によって不在科あり）。その他に新たな試みとして、各科当直の他に外科系救急当番医制をひき運用しております。それには救急部、外科、整形外科、泌尿器科、脳神経外科から毎日1名出向し、輪番制としております。加えて研修医も救急部で夜勤業務に携わっております。

青戸病院の特徴のひとつとして、1次救急が多いことが挙げられます。医師の負担軽減を目的とし、看護師が中心となり患者さんのトリアージを実施しております。また、救急隊とのホットラインを設置した結果、救急搬送が増加傾向にあります。（資料1）

当院での入院患者さんの割合をみますと、約4割以上が緊急入院でありました。（資料2）

新病院では救急部、総合内科、小児科が同一フロアでプライマリーケアユニットとして、基本コンセプトを完結すべき連携を強化する予定です。





●総合内科
診療部長 根本昌実

総合内科

1. 総合内科とは

総合内科は平成20年4月にできた内科です。5人の診療医員と若手医師(レジデント、研修医)が勤務しています。診療医員は総合内科、呼吸器、糖尿病、内分泌、消化器、臨床遺伝の専門医です。それぞれの

専門知識を出し合って診療をしています。私たちは病気別の専門科の医療ではなく、患者さん全身の健康問題の解決を目指し、全人的な医療を行っています。そして葛飾を中心として足立、江戸川に居住されている方々の地域医療を行うことを使命と考えています。

外来では内科初診外来と救急外来を中心にしています。内科初診外来は総合内科の医師と各内科診療部の医師が交代で行っています。近隣の診療所や病院からの紹介も多く、午前外来に30~60名の患者さんが来られます。特に、どの科の診察を受けたいのか分からない場合には適切な診療科への受診をすすめます。また、発熱、体重減少、関節痛、食欲不振などの原因が診断されていない病気に対して精密検査を行って原因を調べ、必要があれば入院して検査を受けていただいています。さらに、私たちは日中の内科救急診療を行っています。救急車で来院を含め救急部に受診される内科疾患の患者さんの初期治療を行っています。

病棟では救急で入院された患者さんの治療と原因不明の疾患をかかえる患者さんの診断・治療を行っています。昨年の統計では脳梗塞と感染症(肺炎、胃腸炎、腎盂腎炎、髄膜炎)が多く(図1)、精密検査での入院では発熱が一番でした(図2)。このように様々な病気を抱える患者さんが入院治療を受けられています。

2. 若手医師の教育

私たちの重要な役割は若手医師の教育です。現在、レジデント1年(卒後3年目の医師)3名と初期研修医1年目と2年目の(卒後1, 2年目の



医師)が共に働いています(写真)。内科救急と入院診療を通して、細かく疾患を分析する力とそれを統合して全身を視野に入れて、患者さんを治療する力を養います。同時に患者さんとのコミュニケーション力を培うことを目標としています。

3. 新病院に向けて

平成24年1月には新病院がオープンします。新病院の一階に初診外来と救急外来ができます。今までと同様に、専門科の医師と協力して外来、救急、入院患者さんの治療を行います。新病院になっても私たちの診療に対する基本理念に変わりはありません。患者さんと共に病気に立ち向かっていきたいと考えています。

入院患者統計(平成22年4月~12月)

図1.疾患別

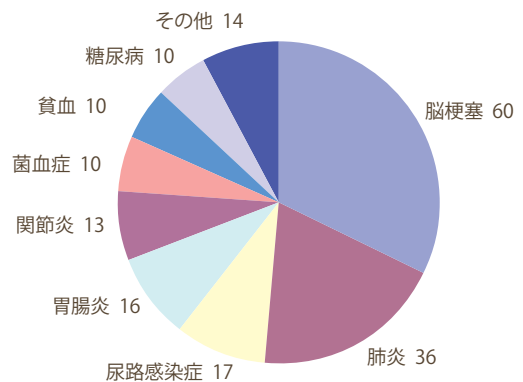
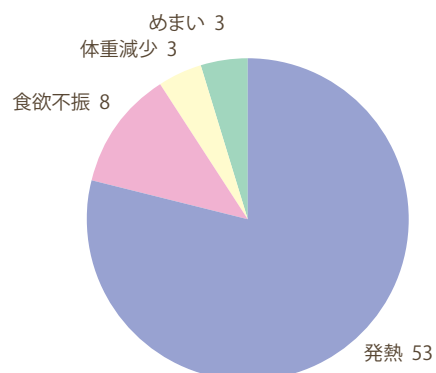


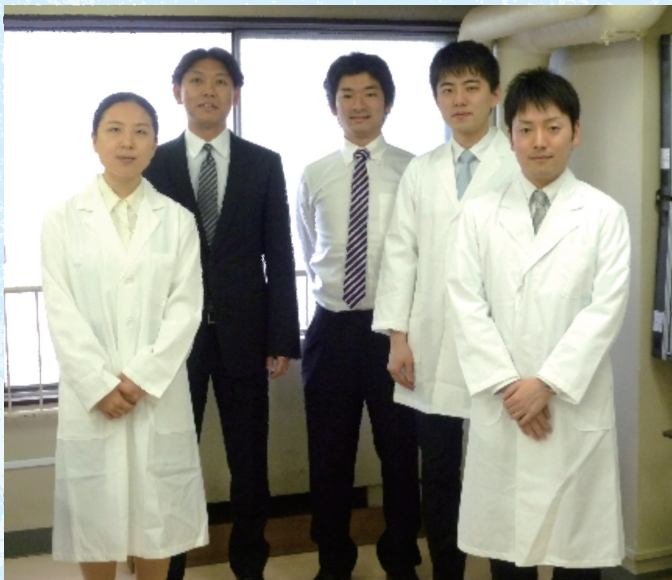
図2.症状別



平成23年度初期臨床研修医のご紹介

4月より平成23年度初期臨床研修医5名が新たに青戸病院に入りました。

2年間の研修期間にて、多くのことを吸収し、未来の慈恵大学を担う医師を目指して頑張ります！



写真左から朴・木村・笠間・上井・小川

研修医からひとこと

・朴 慧真：ぱく へじん

研修も始まったばかりで慣れないことも多いですが、診察・治療を頑張っていきたいです。

・木村 郁夫：きむら いくお

1975年、青森県生まれ。
好きな食べ物：とんかつ

・笠間 哲彦：かさま てつひこ

こんにちは、研修医1年目の笠間哲彦です。一生懸命頑張ります。よろしくお願ひします。

・上井 康寛：かみい やすひろ

中川に癒されながら、新病院と共に成長していけたらなと思っています。よろしくお願ひいたします。

・小川 智広：おがわ ともひろ

新しく生まれかわる青戸病院で真摯に研修に励みたいと思ひます。よろしくお願ひ致します。

院内節電に ご協力を

お願ひ申し上げます

現在、院内においては照明の縮小等により節電を実施しております。夏季の電力需要の増加を見据え、スタッフのクールビズの導入をはじめ、一層の節電対策を講じて参ります。

患者さんおよびご来院の皆様のご理解とご協力をお願ひ申し上げます。

(仮称) 東京慈恵会医科大学 葛飾医療センター

平成24年
リニューアル
OPEN予定



外観(南東側)



エレベーター・吹抜け



病室



外観(北東側)

編集後記

病院の屋上から望むスカイツリーも気がつくと、完成時の高さ634mに到達したとのことです。

早いもので、1月の新病院開院まで半年足らずとなりました。院内では新病院に向けての検討が、様々な部門に分かれてなされています。

残りの半年で、スタッフ一丸となり、万全の状態でお患者さんを迎え入れる準備を進めて参ります。

